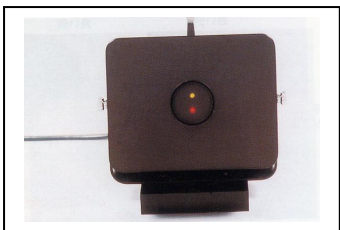


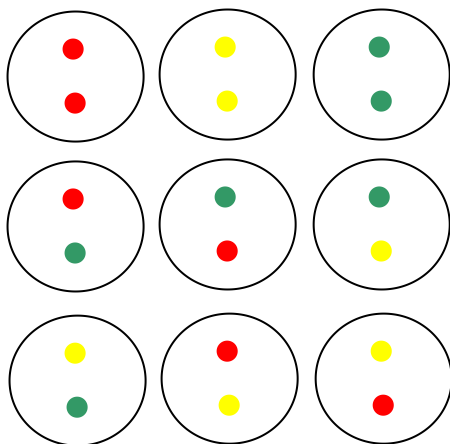
色覚検査-ランタンテスト 例)市川式他

目的 主に職業適性の為の弁色能検査

準備物 ランタン器械・記録用紙・筆記用具



市川式ランタン(改良型)
西尾佳晃:眼科検査ガイドP286



被検者の屈折矯正をし、半暗室にて検査距離 **5m**又は **3m** で**提示光**と視線が垂直になるように器械を調整する

検査距離は器械により違う。視力不良の場合、距離を縮める。市川式の場合は着色やコーティングされていない眼鏡で矯正することとなっている。

被検者に**提示光**を見せながら説明する
 ・光が2つ見えるので上から先に言うこと
 ・色は赤と緑と黄色で2つ違った色が出ることも、2つとも同じ色が出ることもあること
 ・見えたらすぐに答えること

提示時間は2秒。2秒間隔で休止するが、任意に休止できる。一巡9組で1回の検査が終了する。

検査を開始し、記録する

結果・記載例) 誤答を×で表す

市川氏 ランタン	1	GY	RG	GG	RR	YY	RR	YG	GY	RG	2/9
	2	GG	GY	YY	RR	GY	RG	RR	GY	GR	1/9
	3	GY	RG	RR	GY	YY	GG	GY	YY	GR	1/9

市川式の検査用紙での説明では第1回目に1つでも間違えば第2回第3回を続ける。合計3回の内で2つ以内のまちがいはパスとなっている。

3巡まで再検査する **市川式は通常2巡。**

判定基準)

眼科検査ガイドより
 pass : 1巡全部を正答した場合
 fail(フェイル): 一般的には2巡とも誤答があった場合
 border line : 誤答数3以下
 fail(フェイル): 誤答数4以上
 視能矯正マニュアル・色覚と色覚異常より(市川の判定法)
 pass : 1巡を正答した場合
 border line : 2巡の平均誤数3以下
 fail(フェイル): 3巡の平均誤数4以上
 眼科学より
 pass : 1巡を正答した場合
 border line : 2巡の平均誤数3以下
 fail(フェイル): 2巡の平均誤数4以上

判定基準はまだ確立していない。
JFCランタン(ジャパンフォーカス)の場合
 眼科検査法ハンドブックより
 pass : 1巡全部を正答した場合(検査終了)
 pass 以外 : 2巡めの誤数がスコア
 参考) 以下はパスに準ずると考える
 ① 赤・緑の誤認を失点2、黄の誤認を失点1として、9組18灯の失点合計が6以下
 ② 2巡以上検査して、誤数が常に3以下
 ③ 黄のみに誤認があり、赤と緑は全部正しく答える
 ④ 提示光の視角を大きくする(検査距離を短くする)と誤認がなくなる

判定例)
 border line 又は fail

JFCランタンテストのプリントアウト例

